

NISHOGAKUSHA NEWS



二松学舎新聞 [発行] 学校法人 二松学舎 東京都千代田区三番町6-16 03(3261)1292(広報課) <https://www.nishogakusha-u.ac.jp>

2026 (令和8) 年 1月20日 vol.98

英検2級に
合格する!!



附属柏
中学校
3年生

部活は、写真部に所属しています。学業面では、海外研修で英語力不足を痛感したため、英語の勉強を頑張ります。



みんなにとって、
何事も
ウマくいく
1年になりますように!

新年明けましておめでとうございます。
学生・生徒の皆さんに、
2026年に頑張りたいことを聞きました!
今年も皆さんにとって
すてきな1年となりますように。

音楽で人を
笑顔に!



附属高等学校
2年生

部長として臨む最後の定期演奏会に向けて練習をしています。皆さんに心から楽しんでもらえるような演奏を目指します。

未来を目指して 歩み続ける!

後悔のない
ハンドボールを!!



附属柏
高等学校
2年生

学校を代表するハンドボール部としての自覚を持ち、全国ベスト8の目標に向かって邁進していきます。

資格取得の
勉強を頑張る!!



文学部
歴史文化学科
4年次生

4月から金融業界へ就職します。資格を取得して専門的な知識を身に付け、活躍できるよう頑張ります。

ご縁を大切に
道を切り拓く!!



国際政治経済学部
国際政治経済学科
3年次生

これまでの出会いと、新たな出会いを大切に、残りの大学生活を悔いなく全力で楽しみ、日々成長していきます。

150周年ロゴマーク & キャッチコピーが決定

学校法人二松学舎は、2027年10月、創立150周年を迎えるにあたり、ロゴマークとキャッチコピーを決定した。今後、広報紙および各種広報媒体等に広く活用していく。



二松学舎の頭文字である「N」の右上へと伸びるラインと円は、知の芽が未来へ向かって成長していく姿を表しており、次の150年を見据えた上昇感のあるデザインとなっています。ゴールドカラーには、新たな知の光や次代を照らす若き知性、そして時代とともに進化し続けていくという二松学舎の意思が込められています。

二松の「知」、第二章へ。

— 共創の時代をひらく —

二松学舎が150年の間に培ってきた「人文知」の軌跡の延長線上に、新たな価値と未来を切りひらいていく姿勢をイメージさせるキャッチコピー。二松学舎が資産として持つ「人文知」を、AIや多様な人々と協働して新たな価値を創造する「共創知」へ進化させる。二松の「知」で、未知をひらく第二章へ。

2026 年頭のご挨拶



歴史的岐路と二松学舎の使命

学校法人二松学舎 理事長
水戸 英則

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃より本学の教育研究活動にご支援賜り、深く感謝申し上げます。

2026年の年明けは、私立学校経営にとって極めて厳しい環境で迎えました。「18歳人口の崖」と称される2040年問題が予想を越す速度で現実化し、生成AIが社会構造を変えようとしています。

この変革期に、来年創立150周年を迎える本学は「二松学舎とは何者か」を問われています。今こそ「創立の原点」に立ち返る時です。創立者・三島中洲先生が激動期に確信した東洋の精神に基づく人格教育、その「カウンターの精神」が現代の課題への解答を導き出す原点です。そして、AI時代においてこそ、本学が貫いてきた「人間中心の教育」は最も強力な戦略的資産となるでしょう。

この考え方を核に、検討を開始した次期長期ビジョン「N'2040Plan」を見据え、未来への変革を実行します。第一は、既存資産の伸長です。本質

を見抜く「国語力」の育成、対話による「少人数教育」、東洋学・漢学の「人文社会科学の叡智」の価値は一層高まっています。第二は、「足りない資産」の創造です。現代社会における人材ミスマッチ解消に応える「新文理融合学部」の創設検討や、「デジタル・ヒューマニティーズの推進」、渋沢栄一の思想に基づく「社会人向け教育(MBA等)」も検討に値する事項です。

両附属校でも『論語』に基づく「中高大学舎内連携」を一層強化し、法人は「攻めのガバナンス」と財務基盤の更なる強化に努めます。

本学の使命は、AIと人間が協働する未来に向け「共創知」を育み、「ウェルビーイング」の実現に貢献することです。創立150周年を目前に、教職員一同、この厳しい環境を乗り越え、「いつも選ばれる大学・高等学校・中学校」としての地位確立を目指し、皆様と共に歩んでまいります。引き続きご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。



新年の辞

二松学舎大学 学長
佐藤 晋

新年明けましておめでとうございます。皆様の日頃からの本学へのご支援に対しまして、この場をかりて感謝申し上げます。

さて、現在世界各地の労働市場に、それも特に大学新卒者を含む若年者の雇用環境に大きな変化が生じつつあります。具体的には、AIの急速な進展によって、単純業務や未熟練のホワイトカラー職が縮小しつつあることがアメリカなどで報告され始めています。これはまるで、先進国では科学的論理・思考法を十分に理解し、汎用的な能力を身に付けた人材だけが生き残れることを示しているかのようです。一方で、私が専門とする政治の分野から言うと、同じアメリカで真偽不明の陰謀論を結集点とするポピュリズム(大衆迎合主義)がはびこっていることも事実です。

なぜこのような矛盾した状況が生じるのでしょうか。ポピュリズムを掲げる勢力が、客観的なエビデンスを否定することにより、科学やデータな

ど客観的エビデンスを基に行動する勢力をおさえ、一人一票が与えられている政治の場を利用して優位に立とうとしているというのが私の見立てです。その結果、科学的エビデンスを理解できる層とそうではない層の政治的二極化が生まれます。

このことからわかるのは、私たちが生きる社会は、多面的であり、いくつもの要素が複雑に絡み合っていていくということです。その中で大切なのは、客観的根拠に基づく対応によって成り立つ社会を目指すことではないかと思います。社会に有用な人材を輩出することを使命とする本学としてもデータサイエンスの知見を備え、なおかつ今後の社会のいかなる変化にも対応していけるという自信を持ち続けられる人材を育てていく所存です。そのためには、本学の拠り所でもある人文・社会科学の分野での知見の修得にもこれまで以上に力を入れ、丁寧な教育を心がけていきます。



変革の時代を生きるための学び

二松学舎大学附属高等学校 校長
鵜飼 敦之

春光うらかな季節を迎え、保護者の皆様をはじめ、本校を支えてくださるすべての皆様に心より感謝申し上げます。新たな年を迎えるにあたり、生徒一人ひとりが希望を胸に学びを深められるよう、教職員一同、決意を新たにしております。

現代社会は、かつてない大きな変化の只中にあります。急速に発展するAI技術が私たちの生活や価値観に大きな影響を及ぼしており、情報を主体的に見極め、適切に活用し、自らの創意と判断につなげていく力がこれまで以上に重要であると思います。

また、高等学校の授業料実質無償化が進む今、改めて「何を、なぜ学ぶのか」という教育の原点を問い直すべき時期を迎えているとも感じています。こうした環境変化の中で、本校が提供する学びが生徒の将来につながり、人生の確かな礎となるよう、教育活動全体を見つめ直しながら不断の改善に努めてまいります。

そのような中で、本校が中核に据え

る『論語』教育は、一層の意義を持つものであると考えます。「己の欲せざる所、人に施すこと勿れ」に示される他者への敬意や、「学びて時に之を習う」の精神に象徴される主体的・継続的な探究心は、生徒が未来を切り拓くための揺るぎない指針となります。

私たちは「自ら考え、判断し、行動でき、社会に貢献する人材の養成」という理念のもと、「心を育て、学力を伸ばす」教育をさらに充実させ、AI時代だからこそ大切にすべき共感力や倫理観、創造性を育んでまいります。その実践に向けて、日々の授業や行事、生徒同士の協働の場において、対話と省察の機会をより一層増やしていく所存です。

今後も学校・家庭・地域が連携し、生徒を温かく見守りながら共に育てる「共育」の輪を広げ、若者たちが希望ある社会の担い手としてこの学び舎で力強く成長し、希望に満ちた社会に羽ばたけるよう努めてまいります。

本年も何卒よろしく願い申し上げます。



中高改革・飛躍の時

二松学舎大学附属柏中学校・高等学校 校長
七五三 和男

謹んで新春のお慶びを申し上げます。新年を迎え、皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

本校は、大学施設が併設された自然あふれる広大な環境に恵まれるなか、当年度は中高体育館の空調設備交換工事をはじめ、校舎照明のLED化工事や、無線LAN設備の更新など、施設・設備の整備を進め、教育環境の向上に努めております。

昨年4月より、人間力と学力のさらなる向上を目指して、さまざまな改革に取り組んでおります。

まず、50分から45分授業への変更です。生徒たちが集中して授業を受けられる環境となり、また、補習や講習、小論文対策などを行う7限目の時間の充実をはかりました。

次に、探究学習のさらなる充実です。かねてから、自ら問題を見つけて解決する「自問自答」プログラムを実施してまいりましたが、中学校では個人・共創プログラムとして「学問探究・国際探究・地域探究」を、高等学校

では学術・発展プログラムとして「自由探究・国際交流探究・英字新聞甲子園」を実施しております。そして学校生活には、メンタル面での安定も重要です。本校では当年度から「学校生活サポートチーム」として、養護教諭・カウンセラー・支援員が定期的に情報共有し、生徒一人ひとりのサポート体制を強化しております。

昨年、中学校・高等学校共に多くの行事を実施し、生徒の成長に繋がったことと確信しております。生徒が充実した日々を送れるのは、多くの方々の支えがあってこそであり、学びや経験を積めるのも、自分を慈しんでくれる保護者の皆様のお力添えによるものです。そのため、「感謝」の気持ちを大切にしよう伝えております。

今後も、先の時代に貢献できる人材の育成、建学の理念の実現を更に目指してまいります。保護者並びに関係者の皆様のご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

NISHOインフォメーション

健康増進イベントを開催

二松学舎大学国際政治経済学部は、2025年11月3日、「二松学舎大学から始める 健康増進活動—健康の重要さを考える。有識者による対話も添えて—」を九段会館テラスで開催した。同学部国際経営学科で医療ビッグデータの分析などを専門とする小久保欣哉教授は開会の挨拶で「このイベントを、医療や健康について考えるきっかけとしてほしい」と語った。

第一部は同学科の学生たちが、医療リテラシーを高めるための提



学生発表の様子



左から廣瀬俊朗氏、室伏由佳氏、米女太一氏、小久保欣哉教授

案など、ヘルスケア課題に対する発表を行った。続く第二部は、「わくわく、健やかに過ごすとは」をテーマにパネルディスカッションを実施。小久保教授、アサヒ飲料株式会社代表取締役社長の米女太一氏、元ラグビー日本代表キャプテンの廣瀬俊朗氏、元陸上競技女子円盤投・ハンマー投選手の室伏由佳氏の4名が登壇し、それぞれの観点からヘルスケアの重要性について議論した。

知的好奇心の扉を開く公開講座を実施

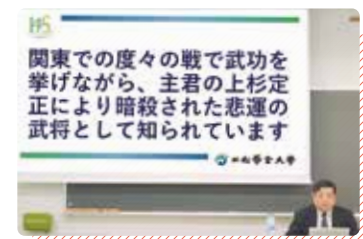
二松学舎大学では、公開講座を通じて、地域の方々が専門的な「知」に触れる機会を提供しており、今年度も両学部の教員が講義を行った。

文学部国文学科の五月女肇志教授は、「中世文学の中の江戸城」と題した講義を展開。五月女教授は、徳川将軍家の居城として知られる江戸城について、その築城は室町時代の武将・太田道灌によるものだったことに触れ、彼自身の和歌や交流のあった漢詩人の作品等に描かれた当時の城の姿を紹介しながら、中世文学作品の魅力や当時の信仰を解説した。

また、国際政治経済学部国際政治経済学科の森倉悠介准教授による「千代田区の気温データで演習するExcelデータ処理入門」では、Excelでのデータの取り扱いと処理

に関する入門的な演習を行った。

これ以外にも、近接6大学からなる千代田区キャンパスコンソ参加大学で開講する共同公開リレー講座「ちよだてで学ぶ2025—人とまちがつながる、学びの場—」では、本学から、文学部国文学科の長谷川豊輝専任講師のオンデマンド講座と、国際政治経済学部国際経営学科の今井悠人准教授の対面講座を実施した。



五月女肇志教授によるオンデマンド講座の様子

小学生対象 書き初め勉強会を実施

二松学舎大学は、2026年1月5日、今回で3回目となる「書き初め勉強会」(千代田区キャンパスコンソ共催、千代田区教育委員会後援)を九段1号館で開催した。

本活動は、千代田区内在住・通学の小学3～6年生を対象に、書き初めの指導を通じて地域社会に貢献することを目的としている。

当日は午前・午後の2部制で行われ、計29名の小学生が参加。本学文学部国際日本・中国学科の関俊史専任講師を中心に、書道を学ぶ本学の学生が指導にあたった。

参加者たちは約2時間にわたり、文字のバランスや筆づかいのコツを教員や学生たちから学び、書き初めを楽しんだ。



楽しく書き初めのコツを学ぶ

先儒祭で歌声を披露

附属高等学校の生徒10名(2年生3名、1年生7名)は、2025年10月26日、第74回先儒祭に「聖堂歌唱会」として参加し「先儒頌徳の歌」を披露した。

先儒祭は、日本の儒学に貢献した儒学者を祀るため、毎年10月に、大塚先儒墓所で行われている祭祀で、本校は、2009年から参加。コロナ禍で参加を見合わせた時期を除き、例年参加している。今回は、開催当日に荒天が予測されたため、会場を湯島聖堂内の斯文会館講堂へ変更して行われた。参加した生徒は、「練習を重ねてきた成果を発揮することができました」と感想を述べた。



「先儒頌徳の歌」を披露

小学生対象N.E.P.を開講

附属柏中学・高等学校は、近隣の小学生を対象としたN.E.P.* (柏市教育委員会後援)を年3期開講している。これは、本校で英語を教える外国人教員が講師を務め、英会話の基礎と外国文化を楽しく学ぶ3カ月間の有料プログラムだ。毎月2回の土曜日に実施され、2クラス各20名の定員に対し、毎回抽選となる人気の講座となっている。

10月25日は、ハロウィンをテーマとした授業が行われ、受講者たちは仮装を楽しみながら外国文化を体験した。今後もN.E.P.を通じて、地域の子どもたちの国際感覚を養い、語学力向上を支援していく。

※二松・イングリッシュ・プログラム



外国文化を楽しく学ぶ授業を実施

「二松学舎教育研究振興資金」(寄付)のお願い

学校法人二松学舎では、「二松学舎教育研究振興資金」の寄付金募集を行っております。寄付金は使途を指定することができ、さらに、税制上の優遇措置が受けられます。(確定申告のお手続きが必要です)

お申し込み方法の詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。ホームページからクレジットカード・ネットバンキングなどで直接申し込みが可能です。スマートフォンでも簡単にアクセスできます。または、専用振込用紙でのお振り込みも可能ですので、ご希望の方は、下記までご連絡ください。

何とぞ、募金活動の趣旨をご理解いただき、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、遺贈によるご寄付も受け付けております。詳細は下記までお問い合わせください。

お知らせ

学校法人二松学舎への多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。ご寄付賜りました個人および企業・団体・法人のご芳名を、学校法人二松学舎のホームページ「寄付者芳名録」に掲載しておりますのでご確認ください。なお、お名前の掲載を辞退されたい場合は、お手数ですが下記までご連絡ください。

スマートフォンでの
ご寄付は
こちらから



企画・財務課

☎ 03-3261-1298 (月～金 9:00～16:30)
✉ k-zaimu@nishogakusha-u.ac.jp

ひとり親家庭居住支援
第1号ファンドに出資

学校法人二松学舎は、「ひとり親家庭居住支援第1号ファンド」に出資した。

本ファンドは、経済的に困難な状況にあるひとり親家庭に対して居住支援と自立支援を行う取り組みである。ひとり親家庭が安心して暮らせる住環境を好条件で提供する「ハード面での支援」に加え、自立に向けた「ステップアップサポート(ソフト面での支援)」を実施することで、子育てとキャリア形成の両立を支えることを目的としている。本取り組みは、その趣旨に賛同する企業・団体によって実現した。

本学も、この取り組みが子どもたちの教育機会の創出や未来を支援することにつながり、SDGs(持続可能な開発目標)の推進においても極めて有意義な活動であると考え、出資を決定した。

詳細は
下記から
ご覧ください

矢羽勝幸 客員教授
3度目の文部科学大臣賞受賞

矢羽勝幸客員教授の著書『新考俳諧論集』(2025年/私家版)が、俳文学に関する優秀な研究著書に贈られる令和7年度「文部科学大臣賞(三重県伊賀市、芭蕉翁顕彰会主催)」に選ばれた。2025年10月12日に開催された第79回芭蕉祭式典では表彰も行われ、矢羽客員教授は「長年続けてきた地味な研究が認められたようで嬉しく思っています」と喜びを語った。小林一茶研究の第一人者で、俳文学を長年研究している矢羽客員教授の同賞受賞は3度目。過去には『一茶全集 全9巻』(1979年/信濃毎日新聞社/信濃教育会編)、『鴛鴦俳人 恒丸と素月』(2012年/歴史春秋社/二村博共著)で受賞している。

設置校NEWS

このコーナーでは、大学、附属高等学校、附属柏中学校・高等学校でのさまざまな行事や学生・生徒の皆さんの様子をピックアップしてお届けします！

11/2・3

二松学舎大学

創縁祭2025



学園祭実行委員長

田嶋 志穂さん(3年次生)

今年度の創縁祭は昨年度よりも多くの方々にお越しいただき、規模の大きい創縁祭になりました。来年度も魅力ある創縁祭を開催いたしますので、ぜひお越しください。



今年度のテーマは「秋麗^{しゅうれい}」。「秋の澄んだ空気や穏やかさに差し込む日差しとともに美しい思い出をつくろう!」をコンセプトに開催しました。声優やお笑い芸人を招いた芸能人ライブのほか、各クラブ・団体・ゼミナールによる展示や発表、模擬店などで大いに盛り上がりました。また、父母会による無料喫茶室や松苓会によるホームカミングデーも両日開催し、学内外の多くの方に楽しんでいただきました。3日にはオープンキャンパスも開催され、参加者に本学の魅力を伝えることができました。

学園祭・文化祭 特集

9/27・28

附属高等学校

令和7年度 二松学舎祭



二松学舎祭実行委員長

菅 絢心さん(3年)

予想外のトラブルもありましたが、委員長として、冷静に対応することができました。当日は、来場者の方々の笑顔をたくさん見ることができ、委員長になってよかったと感じました。

各設置校で学園祭・文化祭が開催されました。当日は保護者や一般の来場者の方をお迎えし、学生・生徒たちの取り組みや雰囲気を
* 感じてもらうことができました。



今年度のテーマは「子曰く、『輝け青春、二松の祭を楽しみたまへ』」。このテーマの通り、「楽しむ」ことを目的に、各クラス・クラブが工夫を凝らした展示や発表を行いました。なかでも、隣接する大学の中洲記念講堂で行ったダンス部、チアリーダー部、吹奏楽部、応援同好会などの発表には、在校生や保護者に加え、中学生をはじめとする一般来場者も大勢集まりました。生徒たちは、多くの来場者の前で堂々とパフォーマンスを披露し、日頃の練習の成果を見ていただく貴重な機会となりました。



松陵祭実行委員長

小島 寛貴さん(高3)

今年度の文化祭は、一人ひとりの個性が存分に発揮された、最高に魅力的なものになったと感じています。仲間と力を合わせて準備してきた日々は、私にとって一生忘れない思い出です。

9/13・14

附属柏中学校・高等学校

第56回 松陵祭



開校以来最多となる4,000人を超える来場者を迎えた第56回松陵祭。空に広がる星々になぞらえ、一人ひとりの個性が最大限に輝くようにという願いが込められた「アステリズム」というテーマの

通り、ユニークな企画やイベントが目白押しの学園祭となりました。中でもひととき目を引いたのは、「モンスターカプセル」(協力:株式会社グリーグローブ)という巨大ガチャ。カプセルに入った二松柏の制服を着たクマのキーホルダーが大人気でした。その他にも、日頃の探究活動の成果披露や最も人気を博した企画に贈られる松陵祭グランプリの発表などもあり、大盛況のうちに幕を閉じました。



附属高校

10月28～31日

沖縄修学旅行（2年生）



ひめゆり平和祈念資料館

附属高等学校2年生は、2025年10月28～31日に修学旅行で沖縄を訪れた。1・2日目は沖縄県営平和祈念公園やひめゆり平和祈念資料館などを訪れ、平和学習に取り組み、戦争の歴史を深く学び、平和の尊さを認識する貴重な機会となった。3日目は三線やシーサー作りなどの文化体験、海釣りやカヌー体験などの自然体験など各自が選んだプログラムを通して、沖縄の文化や自然を満喫した。最終日は班別研修を行い、生徒たちは事前の計画に基づいて、中城城跡などの世界遺産を巡ったり、国際通りで散策を楽しんだりするなど、仲間と共に最後まで沖縄での時間を楽しんだ。

この修学旅行で生徒たちは、沖縄の歴史・文化・自然を五感で体験し、多くの「気づき」を得ることができた。



世界遺産 今帰仁城跡見学

附属柏高校

11月7～10日

沖縄修学旅行（2年生）



平和学習で訪れた白梅之塔

附属柏高等学校2年生は、2025年11月7～10日に修学旅行で沖縄を訪れた。1・2日目は石垣島で、雄大な自然を満喫した。特に2日目の離島体験では、「石垣島 体験ダイビング&製作体験」や「黒島 研究所訪問&ウミガメ放流体験&島周遊」など、7つのコースから1つを選択し、さまざまな体験をした。3日目からは、平和学習のため沖縄本島（那覇）へ移動。生徒たちは、沖縄県平和祈念資料館やひめゆり平和祈念資料館など、クラスごとに選択した平和学習施設を巡り、悲惨な戦争の記憶を辿りながら、平和の尊さを改めて認識した。また、班ごとに計画を立て、歴史・文化・自然など、それぞれのテーマに沿って見学を行うなど、仲間と行動を共にしながら学びを深めることで、多くの知見を得ることができた。



石垣島のきれいな海で体験ダイビング



自転車黒島を周遊

附属柏中学校

11月12～15日

グアム修学旅行（3年生）

附属柏中学校3年生は、2025年11月12～15日に修学旅行でグアムを訪れた。到着日には、アプガン砦やスペイン広場などを訪問し、スペイン統治時代のグアムの歴史について学んだ。2日目は現地の高校を訪問し、英語で交流を深めた。3日目は、先住民チャモロ人の伝統文化を体験したあと、バナナボートなどのビーチアクティビティを楽しんだ。最終日には、平和学習として、太平洋戦争記念館を訪れ、展示や映像資料を通して日米間で繰り広げられた激戦の歴史について学んだあと、グアム平和慰霊公苑を訪れ、平和の尊さを改めて胸に刻んだ。

いつもとは異なる環境のなか、友人たちと協力しながら過ごした海外での4日間は、集団生活における規律や、異文化の中で自ら判断し行動することの大切さを学ぶ貴重な機会となった。



現地の高校生と記念品を交換



ビーチアクティビティを楽しむ生徒



平和学習で訪れた太平洋戦争記念館

戦後80年
帰還者たちの記憶ミュージアム×二松学舎大学 合同展私たちが伝える戦争 南方へ従軍した
兵士たちの記憶

主催：帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館〔総務省委託〕）、二松学舎大学



林ゼミの学生による展示



「南方抑留かるた」の紹介をする学生

2025年11月2・3日、二松学舎大学は、帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館〔総務省委託〕）との合同展として「私たちが伝える戦争 南方へ従軍した兵士たちの記憶」を本学九段2号館で開催した。

本合同展は、同ミュージアムと本学文学部歴史文化学科で南方抑留の研究を行う林英一准教授とそのゼミ生が企画・運営。兵士が従軍先で描いた絵画の紹介に加え、ゼミ生が制作した「南方抑留かるた」が展示された。また、元兵士の証言映像の上映や同ミュージアム学芸員とゼミ生によるギャラリートーク、林准教授による講演会

なども実施。2日間で495名が来場した。

合同展に参加した奥井綾さん（4年次生）は「かるた制作は、歴史について学びを深める貴重な経験となりました。トークイベントを通じて、来場者の反応を直接知ることができ、学びがより確かなものとなりました」、また内藤さくらさん（3年次生）は「来場者との交流を通して、自分の学びが誰かに届いていることが実感できました。『若いのに戦争に興味があって感動した』という言葉をもらい、私にも平和のためにできることがあるんだと考えることができるようになりました」と感想を述べた。

NISHO Activity Report

学業や課外活動に励む学生・生徒を取り上げるこのコーナー。
今回は両附属高校で学業と両立しながら全国大会に出場した部活を取り上げます。

附属高校 全国大会で圧巻のパフォーマンスを披露

附属高等学校ダンス部が、2025年9月14日に北九州メディアドームで開催された「第15回全日本高等学校チームダンス選手権大会」の決勝大会に出場。小編成部門で「Butterfly effect」が優秀賞4位と審査員特別賞、大編成部門で「チーム二松」が優秀賞7位を受賞した。また、両部門総合で団体総合3位、ソロバトルでは森田暖音さん（3年）が日本一に輝いた。



ダンス部のメンバー

附属柏高校 第19回U18陸上競技大会で自己ベスト更新

附属柏高等学校陸上部の砂原唯音さん（3年）が、2025年10月19日に三重交通Gスポーツの杜 伊勢陸上競技場で開催された「第19回U18陸上競技大会」男子300mに出場した。0.02秒差で決勝進出は逃したものの、自己ベストとなる34.00秒を記録。砂原さんは「今までの努力が自信につながり、自己ベストを更新することができました」と喜びを語った。



砂原唯音さん(左)とサポートの飯泉生和さん(右)

2025年12月6日

『論語』の学校 -RONGO ACADEMIA-

加藤照和氏・安岡定子氏が講演 『論語』の教えを現代に生かす

学校法人二松学舎は、2025年12月6日、九段1号館中洲記念講堂にて、2025年度『論語』の学校-RONGO ACADEMIA-を開催した。20回目となる今回は、学校法人二松学舎の水戸英則理事長の挨拶にはじまり、株式会社ツムラ代表取締役社長CEOの加藤照和氏と、公益財団法人郷学研修所・安岡正篤記念館理事長で安岡定子事務所代表の安岡定子氏が登壇した。

加藤氏は「天地自然の理法に順う“理念経営”～ツムラアカデミーによる組織・人的資本形成」をテーマに講演。漢方薬で有名な株式会社ツムラでは、「人財こそが価値創造・競争優位の源泉」との信念に基づき、社内人財養成機関である「ツムラアカデミー」を中心に、役職員全員が論語などの古典に学び、人



加藤照和氏

間がどうあるべきかを深く考えることで、人間力を高め調和のとれた人格形成を目指している。加藤氏は『論語』は最も欠点の少ない教典であり、己を修め、人に交わる日常の教えが説いてある」と述べ、論語を学ぶことこそが、企業経営における倫理観と組織力の基盤を築くと強調した。

続く安岡氏の「素読を通して『論語』を味わう」と題した講演では、参加者と一緒に、先人に思いを馳せながら『論語』の章句を素読。会場に一体感が生まれた。また、安岡氏は『論語』の章句の解説を行いながら、「『論語』は普遍的なものであるから私たちの心に響く。2500年前の人と今の私たちが同じ言葉に触れ、同じように人生に生かせるものである。漢文だからと敬遠せずに『論語』に触れてほしい」と参加者にメッセージを送った。



安岡定子氏

Profile

かとう・てるかず

中央大学商学部卒業後、津村順天堂（現ツムラ）に入社。1999年より米国駐在。2001年に米国子会社TSUMURA USA, INC. 取締役社長に就任。2006年に帰国し広報部長、2011年に取締役執行役員コーポレート・コミュニケーション室長を歴任し、2012年に代表取締役社長に就任。現在、代表取締役社長CEO。

やすおか・さだこ

二松学舎大学文学部中国文学科（現 国際日本・中国学科）卒業。「斯文会・湯島聖堂こども論語塾」をはじめ、全国各地で幼い子どもたちやその保護者に『論語』の講義を行う。また、企業やビジネスマン向けのセミナーや講演活動も行う。『新版 素顔の安岡正篤 わが祖父との想い出の日々』（2015年／PHP研究所）など著書多数。本学評議員。

地域・産学連携

倉敷市・二松学舎大学連携講座

「鬼」の歴史・文化を考察

主催 二松学舎大学 共催 倉敷市



小山聡子教授による講演の様子

二松学舎大学は、2016年3月に締結した倉敷市との連携協力に関する協定に基づき、地域社会への「知」の貢献を目的として、2025年11月2日に岡山県の倉敷市立美術館講堂にて「倉敷市・二松学舎大学連携講座」を開催した。今回は、岡山県に伝わる桃太郎伝説にちなみ「鬼」をテーマにした講演が行われ、80名が参加した。

第1部では、本学文学部国文学科で日本の上代文学を専門とする長谷川豊輝専任講師が、「鬼をはらうー古代の歴史書と鬼ー」と題して講演を行った。講演では、古文書に登場する「鬼」の表記に着目し、日本最古の正

式な歴史書『日本書紀』を中心に、上代文学的視点から考察した。

続く第2部では、本学文学部歴史文化学科で日本中世宗教史を専門とする小山聡子教授が、「鬼退治の歴史と桃太郎」をテーマに登壇した。講演では、史料や説話などから読み取れる、外国人等を鬼と見なして排除してきた歴史的背景や、桃太郎の鬼退治の物語が歴史の中でどのように位置づけられ、利用されてきたのかについても触れた。

参加者からは、「これまで漠然と認識してきた「鬼」について、文学的・歴史的な視点での考え方を知ることができ、大変興味深かった」といった感想が寄せられた。本学教員による歴史文化の深層に迫るアカデミックな講演は、多くの方が聴講し、参加者の歴史文化への関心の高さがうかがえた。



小山聡子教授



長谷川豊輝専任講師

第47回 サントリー学芸賞 荒井裕樹教授が受賞

本学文学部国文学科の荒井裕樹教授の著書『無意味なんかじゃない自分ーハンセン病作家・北條民雄を読む』（講談社、2025年）が、第47回サントリー学芸賞を受賞し、2025年12月8日、贈呈式が東京會館にて盛大に行われた。

サントリー学芸賞は、広く社会と文化を考える独創的で優れた研究、評論活動を、著作を通じて行った個人に対し、公益財団法人サントリー文化財団が毎年贈呈する権威ある賞で、荒井教授は「芸術・文学」の部門で受賞。荒井教授の著作は、ハンセン病作家・北條民雄の文学と思想を深く掘り下げた点で高く評価された。

荒井教授は、「ハンセン病文学というマイナーな領域が注目されたことに驚きました。本書を書くことができたのは、これまで社会啓発や資料の保存活動に尽力されてこられた方々のおかげです。私を支えてくださった皆様に感謝申し上げます」と受賞の喜びを語った。



贈呈式で挨拶をする荒井裕樹教授

2025年度の学位記授与式および卒業証書授与式について

大学 2025年度学位記授与式

日時：2026年3月17日（火）11:15～

会場：文京シビックホール

※同日、東京ドームホテル 大宴会場「天空」で父母会主催の卒業記念パーティーを開催予定。

附属高校 第76回卒業証書授与式

日時：2026年3月1日（日）9:00～

会場：日本教育会館

※同日、ホテルグランドアーク半蔵門 宴会場「富士の間（東）」で父母の会主催の暫別懇親会を開催予定。

附属柏高校 第55回卒業証書授与式

日時：2026年3月3日（火）9:30～

会場：附属柏中学校・高校体育館

※同日、柏キャンパス2号館で保護者の会主催の懇親会を開催予定。

附属柏中学校 第13回卒業証書授与式

日時：2026年3月19日（木）9:30～

会場：附属柏中学校・高校体育館

※同日、ザ・クレストホテル柏で保護者の会主催の卒業を祝う会を開催予定。

◆日時・場所などは予定です。各設置校にご確認ください。

春の OPEN CAMPUS を開催します！

2026年 3/20（金・祝）

詳細は入試課までお問い合わせください。

入試課：☎03-3261-7423（月～金 9:00～16:30）

